

# 迅速ウイルス検出機器導入実証事業

(先進的医療機器・システム等技術開発事業)

令和元年度予備費予算額 **3.1億円**

## 事業の内容

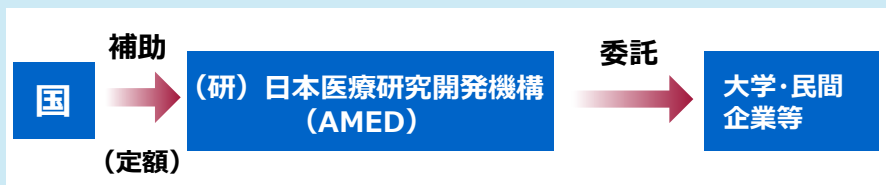
### 事業目的

- 中華人民共和国で最初に報告された新型コロナウイルス感染症は、1月31日に世界保健機関（WHO）の緊急事態（PHEIC）宣言が発出され、それ以降も新型コロナウイルスによる感染症が拡大しています。
- こうした状況において、日本国内においても新型コロナウイルスの感染者が増加しており、現在、2、3時間を要しているウイルスを検出するためのPCR作業を15分程度に短縮できる検査機器の開発が急がれています。
- 産総研が開発した迅速ウイルス検出機器（GeneSoC）について、3月中に今回の新型コロナウイルスの検査に活用できるようにするため、既存のPCR機器による検査を行っている機関等に導入し、現場での実効性や操作性の確認も合わせて行い、実利用の加速化につなげます。

### 成果目標(最終)

- 令和2年3月中に、迅速ウイルス検出機器（GeneSoC）の利用開始を目指します。

### 条件（対象行為、事業者、補助率等）

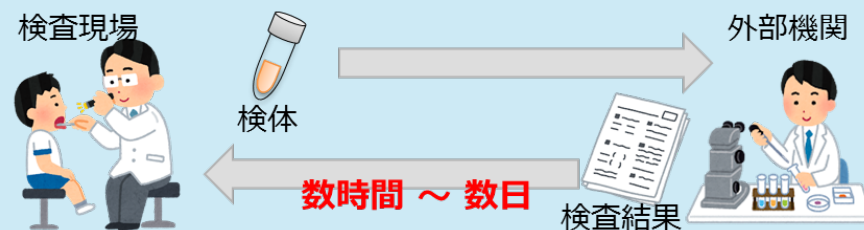


## 事業イメージ

### 機器情報



### 現行のPCR検査の課題



- 検査完了まで半日程度はかかるため、
  - ① 数十人の大規模検査でないと時間的に検査効率が悪い。
  - ② 結果が出るまでの間、感染疑い者の隔離が困難。⇒ 新たな手法では、多数の検体を同時に処理できるわけではないが、1人からの検査が機動的に行え、短時間で結果判明。  
このため、結果の迅速性が求められる場所での貢献が期待できる。